

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°27 ナナ・ヴァン

生産地方：ラングドック

新着ワイン 1 種類♪

VdF ソー・ナット！2017（白）

2017年のソー・ナットはナタリーの自信作！春に遅霜の被害に遭い約40%は霜の後の副芽からできたブドウだったが、それが功を奏したのか、南の白とは思えないシャープで軽快なまるでミュスカデを彷彿させるようなキレのあるワインが出来上がった。ナタリー曰く、一般的に南の白は北と違い酸をバランスよく残すのが難しく、酸を残すために早摘みをするとうワインは青っぽく平たい味わいになり、逆にしっかりとした味わいを求めると酸が落ちアルコール度数が上がりやすくなり、理想のワインをつくるのは赤よりも数段難しいとのこと。今回のようなワインのバランスは彼女にとって奇跡に近いとのことだ。潮のようなフレーバーとレモンのようなキリっとしまった味わいがあり、魚介と是非合わせてみたいワインだ！

ミレジム情報 当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2017年のラングドックは、ロワール同様に4月終わりに霜に遭い主芽の60%が被害に遭った。だが、その後副芽がある程度房をつけてくれたおかげで、最終的に収量は大きく落ちることがなかった。霜以外は何事もなく順調にブドウは成長し、夏に日照量に恵まれたおかげで、成熟のスピードが早まり、最終的に傷ひとつないきれいなブドウを取り入れることができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



写真① ピノドニスの収穫

今回はナタリーを追いかけて北へ♪たまたまこの週はブリゾーにいるとのこと、急ぎよ彼女に会いにロワールまで足を運んだ。私が訪問をしたときはちょうどピノドニスの最後の収穫を終えるところだった。見てくださいこの立派なピノドニスを！（写真①）ナタリー曰く、2018年は平均収量が30 hL/haに達した久々に大豊作に恵まれた年なのだそうだ！（でも、30 hL/haが大豊作なんて…どれだけ過酷な環境なんだ!?) ちなみに、ここはブリゾーの畑。ブリゾーは通常シュナンの畑だが、端の6列だけクリスチャンがかつてピノドニスを植えたそうで、このピノドニスがこれだけブドウを付けたのは、ナタリーも今年が初めてかもしれないと驚いていた。

ナタリーと一緒に収穫している人たちはドメーヌの近くに住むロマの人たち。（写真②）彼らはジプシーのように住所を持たず、キャンピングカーで移動しながら季節労働者としてフランス各地を回り生計を立てている人たちだ。ナタリー曰く、近年はフランス人に収穫の募集をかけたとしても、肉体労働の割には賃金が安いという理由でほとんど集まらず、どうしても彼らのような移民の労働力に頼らざるを得ないそうだが、ナタリーにとっても黙々と仕事に集中するロマの人たちの方が効率が良かったため、今年はずいぶんフランス人の募集を一切かけなかったそうだ。毎年各地の



写真② 収穫をするロマの人たち

収穫に参加している私から見ても、近年は外国の労働者、特にフランス語をほとんど話さないブルガリアやハンガリー、ポーランドなど東欧からの収穫者が増えている傾向を肌で感じる。ナタリーが言うには、ロマの人たちは今までの仕事が東欧の人たちに奪われるのではないかと危機感を感じているようだ。

フランス人が敬遠する単純労働を賄うロマ人。その単純労働をさらに安い賃金で請け負う東欧の人たちの出現…。移民大国のフランスで起こっているこの現象は、他のヨーロッパ諸国のみならず、日本でも入国管理法改正による移民問題がヒートアップしていることを考えると、日本も決して他人事ではないと感じている。

(2018.9.21.のドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ